

小田野の廃寺 玉泉寺

常陸大宮市域には、かつて多くの寺院がありました。江戸時代前期の寛文年間（1661～1673）の時点で、常陸大宮市域には少なくとも200を超える寺院が存在したことがわかっています。しかし、徳川光圀や徳川斉昭が実施した寺社改革や、明治初期の廃仏毀釈によって、寺院の多くがその姿を失いました。現在は、地名やわずかな史料、伝承からその痕跡を伺うことができますが、その実態については不明なことが多いです。今回は、その中から、小田野地区にかつて存在した玉泉寺について紹介していきます。

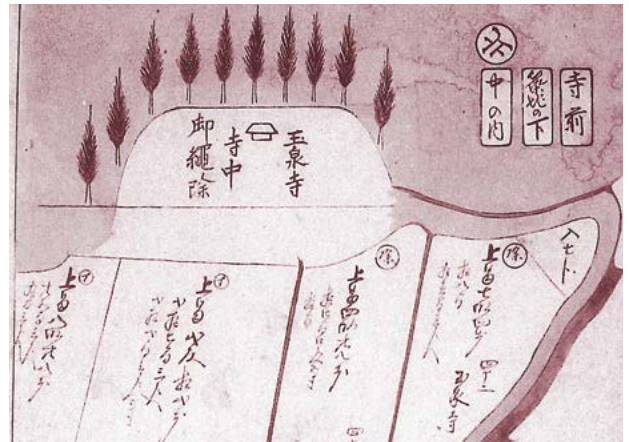
◇玉泉寺の概要

霊龍山玉泉寺は、小田野地区字寺跡にかつて存在した臨済宗の寺院です。水戸藩の「開基帳」によると、南北朝時代の暦応元年（1338）に小田野刑部少輔という人物が建立したと伝わります。「玉泉寺旧記」（高野家文書1）によると、元は小篠平（現在の字忍野平）に七堂伽藍を建立したと記されており、古い瓦が出土したという古老の言い伝えが記録されています。本尊は千手観音菩薩像であり、元禄9年（1696）に徳川光圀から玉泉寺へ寄進されました。この他、薬師如来像を安置した薬師堂が存在していたことも記されています。

寺院を建立した小田野氏は佐竹氏に連なる一族であり、佐竹師義（山入師義）の子・自義が小田野氏を名乗ったことで始まります。しかし、「開基帳」に記された創建年代と小田野氏の活動時期が一致しない点が見られるなど、実際の創建年代については不明な部分が多いです。しかし、小田野氏が小田野の地を拠点としていたことや、玉泉寺が佐竹氏にゆかりのある正宗寺（常陸太田市増井）の末寺であったことを考えると、小田野氏と関係の深い寺院であったことはおそらく確かでしょう。玉泉寺はその後、天保の寺社改革で破却されて無住となり、安政



▲写真1 玉泉寺跡地（小田野地区）



▲写真2 江戸時代の玉泉寺（小田野村絵図より）

元年（1854）11月に火災で寺院・薬師堂が全焼したことで、完全に廃寺になったと考えられます。

◇徳川光圀との関係

「玉泉寺旧記」によると、水戸藩主である徳川光圀は、元禄5年（1692）6月に2回、元禄8年（1695）8月に1回、元禄11年（1698）に1回と、計4回玉泉寺を訪問しています。『美和村史』によると、光圀は美和方面への巡村を計9回実施しており、記録の日時はいずれも巡村の日程と一致していることから、小田野村へ立ち寄った際に度々玉泉寺を訪れていたことが想像できます。特に、元禄8年の訪問では、玉泉寺が手配した御膳を食して満足した光圀が、その場にいた僧侶や家来一同に論語「学而時習之」を説き、自作の漢詩を詠んだと伝えられています。交流はこれだけに留まらず、元禄5年10月には常陸太田の西山御殿にて蜜柑1籠を、元禄7年（1694）には江戸小石川の後樂園にて御菓子や金200疋、掛軸などを、その他、元禄8年～元禄10年にかけて、高原焼の茶碗や葡萄、素麺など、光圀から計11度も物品を拝領したと記録されています。水戸藩と地域寺院の交流について記した資料は少なく、玉泉寺との交流の多さから、光圀がいかに民意に重きを置いていたか、その一端を伺うことができます。

【謝辞】

佐藤誠さん、高野守さんにご協力いただきました。

「玉泉寺旧記」は複写版が当館に所蔵されており、館内で閲覧することが可能です。

【参考文献】

美和村史編さん委員会『美和村史』美和村、1993年（高橋拓也）

■問い合わせ■ 文書館 ☎52-0571